

7月13日(日)

四万十産

鰻祭り

1パック

1,980円(税込)



西田鮮魚店

72-5246

御用聞き便専用番号 090-7125-5489 (旧庄原市内はご自宅に配達)

※御用聞き便は火曜日・木曜日・日曜日のみの配達

皆さん、こんにちは。いつも元気で声の大きい西浦です！
今回は僕が広告の文章を書きたい！と志願させていただきました。
最近すごく暑いですね。僕はよく釣りをしているのですが、暑くて暑くてとてもやれんです(泣)。ですが、この前！念願のブラックバスの50cmアップを釣ることが出来ました！！こんなに嬉しい物はありません！！次は60cmのブラックバスを狙って釣りをしていきたいと思います。そこで暑さにも負けたくない。
7月と言えば、丑の日があります。先日土曜に祭りがあつたので行ってきました。すごくにぎわっていて、うちまでも子供の頃を思い出しました。次はよいとこ祭を楽しみにしています。
丑の日といえば鰻です！西田鮮魚店は毎年恒例！四万十産の鰻をご提供させていただいています。鰻は夏バテ防止やスタミナ満点！食べずにはいられないですよ！
皆さんは鰻といえは何を思い浮かべますか？僕が今回思い浮かべたのが！なんと！な！な！なんと！！「鰻祭り」です！！丑の日も近いのもあります。祭りもあり。口の中いっぱいに鰻で祭りのように楽しんで味わっていたきたいという思いを込めて！今回の広告を考えました。
さあ皆さんも暑さを乗り越えていきましよう！

『宮角さんの原爆ドーム祈りの写真を見に来てください』

口元をわずかにほころばせる人や真剣な表情で空を仰ぐ人。「目を閉じて平和について考えてみてください」と頼んでカメラのシャッターを何度か切ると、緊張がほどこけてくるのがわかる。

ここは広島市にある原爆ドームの前。訪れた人たちに声をかけ、肖像写真を撮らせてもらうようになって25年がたつ。これまでに撮影したのは2000組以上になる。

こうした取り組みを始めたのは、私が被爆2世であることが大きく関係している。

1945年8月6日、広島駅で被爆した父は屋根の下敷きになり、五寸くぎが頬を貫通した。幸い命は助かったが、10年以上たつても、体のあちこちからガラス片が皮膚を突き破って出てきた。痛みに堪える父の姿は今も記憶に残っている。

そうした経験から、東京で主に雑誌や広告の写真を撮る傍ら、広島の実爆建造物などを撮っていた。そんな時、通りかかったフランス人アーティストから声をかけられた。原爆ドームの前で目を閉じている姿を撮影してほしいという。完成した写真を見て「これだ!」とひらめいたのが活動のきっかけだ。

けれど初めは声をかけても不審がられ、素通りされるばかり。ところが、あるイタリア人の男女に出会ったことが転機となる。

2人は世界を自転車で巡るグループツアーの中で親しくなり、結婚を考える間柄となったという。戦争の負の遺産である原爆ドームの前でキスを交わす姿を捉えたことで、続けようという気持ちがわきあがった。

被写体は修学旅行生や国内外の観光客など、国籍も年齢も多種多様。撮影後には、妻の智子がアンケート用紙を手渡し、名前や住所、原爆ドームを訪れた理由や平和に関する考えを記入してもらう。撮影した写真は現像して送るが、宛先不明で戻ってくることも少なくない。少し寂しさを感じる瞬間だ。

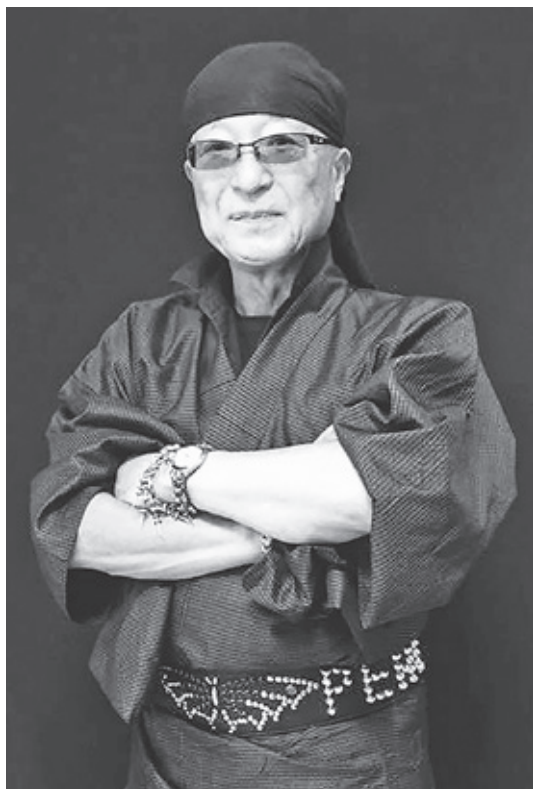
さらに人づてに依頼して被爆者にも会うようになった。その1人である高齢女性は当初、写真に収まるのを嫌がった。聞けば、原爆投下前に家族写真を撮ったが、自分だけが助かり負い目を感じ続けてきたという。何度か話して、ようやく承諾してくれた。出来上がった写真では、車いすに座って娘とともに穏やかな笑みを浮かべている。

北欧のノルウェーからはるばる訪ねてきた親子3人連れも思い出深い。徴兵制のある母国で息子の一人が近く志願する予定で、それを止めたい母親が戦争の悲惨さを知ってもらおうと原爆ドームを訪れたという。今でも気になる存在だ。

写真展を各地で開いたり、2010年に写真集「GROUND ZERO 希望の神話」(文工社)を出版したりしたことで、被写体になることを申し出てくれる人も増えてきた。著名人にも協力してもらっている。広島県出身の俳優、東ちづるさんや詩人のアーサー・ビナードさん、音楽評論家のピーター・バラカンさんなどだ。バラカンさんが「暴力を振るわないことが最低限だと思います」とおっしゃっていたのは忘れがたい。

今でも撮影を断られることも多く、苦労は尽きない。けれど、私の命のある限り、続けたい。世界中の人たちに戦争の愚かさを知ってもらいたいと願っている。

第2弾の写真集「GROUND ZERO HIROSHIMA LOVE and PEACE」を刊行することができた。多くの人に見に来てほしい。



宮角孝雄プロフィール
広島県庄原市生まれ。被爆2世。
永末小学校・庄原中学校・庄原格致高校・日本大学卒業。
石井竜也氏プロデュースのグラウンドエンジェルに写真で参加。
ジャズギタリスト「ジョー・パス」写真集出版。
エコー・ド・プロトコール・モナコ写真講師。
2000年より広島原爆ドーム前で人々の肖像を撮ることをライフワークとし、2010年にその写真集「GROUND ZERO 希望の神話」を出版。

宮角孝雄さんは格致の大先輩です。
被爆二世の彼の平和への思いの強さを常に感じてきました。

本年は被爆八十年にあたります。
しかし周囲を見まわすと自分の利益を優先した争い・暴力・犯罪が多い世の中となっております。
文明は進化しても、人としてはむしろ退化しているように感じるのは、私だけでしょうか…。
そんな中、愛と平和への願いをかかげ宮角さんが写真集を出版されました。

「GROUND ZERO HIROSHIMA 希望の神話」に続く第二弾「GROUND ZERO HIROSHIMA LOVE and PEACE」です。

7月18日から28日まで、ジョイフルにおいて記念の写真展を開催させていただきます。
ぜひご来場いただき感想などお聞かせください。

萬福寺住職 高橋 道英

GROUND ZERO HIROSHIMA LOVE and PEACE 被爆80年 宮角孝雄写真集発刊記念 '25HIROSHIMA写真展

日時 **2025年
7月18日(金)~28日(月)**
場所 **ジョイフル 2F
プリンセスガーデン**



★ オープニングイベント ★

7月19日(土) 10時より
新屋まりさんのライブ演奏